

Episode 3

ともに熱くなれるスポーツ



「ラグビーはルールが難しい」という印象があると思いますが、実は、ラグビーの醍醐味は分かりやすく、ボールを持って押し合いをし、相手のゴールラインにボールを持って行けば得点です。お互いのゴールラインとの距離を観れば、ピンチやチャンスも一目瞭然！陸上選手並みのスピードで、ぶつかる激しさも、生で見ると迫力満点です。

トップチームには体格ではかなわないので、運動量をかなり重視していて、倒されてもすぐに起き上がって次のプレーに参加し、常にハードワークを心がけています



スタジアムでは、テレビに映らない場所も見える！

一緒に応援して盛り上がりましょう！



Episode 4

紳士のスポーツ

ラグビーの魅力の一つにその「激しさ」が挙げられますが、ラグビーは紳士のスポーツなので、相手へのリスペクトを忘れず、必要以上にケガにつながるプレーを行いません。お二人は、大きなケガの経験はあまり無いそうで、せいぜい「脱臼」くらいだそうです。



「脱臼」ってまあまあ大きなケガでは…？



試合前は、相手チームのビデオをみんなで見ながら戦略を考えるみたい。仲がいい！



不安は良いプレーにつながらないので、試合前は、これまでに培ってきたことを100%発揮できるように気持ちの整理をしていました。



何事も準備が大事。自らのできることを考え行動し続けることが大切。



テスト前に一夜漬けて望むこともある私たちには深く刺さる言葉。



この心の持ち方は今後の人生に活かしていきます。



お話ししてくれた人 Key Person

桜庭 吉彦 さん



現釜石シーウェイブスゼネラルマネージャー。秋田県出身で、秋田工業高校3年時に花園優勝を経験。卒業後、新日本製鐵釜石製鉄所に入社し、チームの顔として活躍。1986年に日本代表に初選出され、W杯にも1987・1995・1999の3大会に出場。

高橋 聡太郎 さん



釜石シーウェイブスでポジションはロック。釜石市出身。7歳の頃、ラグビー選手として活躍した父の影響でラグビーを始める。釜石高校を卒業後、明治大学へ進学。大学卒業後、釜石へと戻り、釜石シーウェイブスに入団。チームで最も釜石シーウェイブス歴が長い選手。

Episode 5

ラグビーは大学受験に通ずる



私たちの頭の片隅にチラついている大学受験。桜庭さんから大学受験に通ずるお話がありました。

市内で広がるワンチーム



本多 寛奈 さん

平野 雅季 さん

前川 太優 さん

市内でもラグビーに興味を持つ人が増えています。その中でも今回は、釜石高校の2年生3人が取り組んでいるラグビーについての研究を紹介します。

私たちは、RWC2019をきっかけに、ラグビーに興味を持ち、SSHでラグビーに関する研究を行っています。釜石の一員として地域に根差す釜石シーウェイブスのお二人にお話を伺ったところ「釜石ラグビー」がますます好きになりました。今回は、皆さんに釜石ラグビーの魅力をお伝えします。

SSH (スーパーサイエンスハイスクール)

「地域に新しい価値を生み出す」を目標とする人材育成プログラム。生徒の興味関心毎にグループに分かれ、卒業生や地域、研究機関などの協働を通して、主体性・科学的探究能力・国際的視野の獲得、発展を目指しています。

さまざまなことにトライ!



Episode 1

身近にいるトップ選手



テレビで見るイメージがあるトップ選手ですが、釜石にはたくさんのトップラグビー選手がいます！我々にとってトップ選手が身近にいることも釜石ラグビーの魅力です。

フォワード陣はベンチプレスで200kg以上持ち上げます。スクラムでは、ファミリーカーを持ち上げられるくらいの力でぶつかり合います！力仕事はお任せを！



こんなの持ち上げられないよ～



同じ釜石市民として誇らしい!



あたたかい人たちが多くですね。高校時代、釜石ラグビーV7の試合の前座として試合をした時に、釜石の人が応援してくれました。

Episode 2

ラグビー選手も釜石Love!

選手から見る釜石はどのように写っているのでしょうか。



確かに、ラグビーを研究してる高校生はいないかも。



誰もがラグビーを一度は見たことがあるんじゃないかというくらい、ラグビーがまちの文化として溶け込んでいて、いろんな場所で受け入れてもらいやすいです。